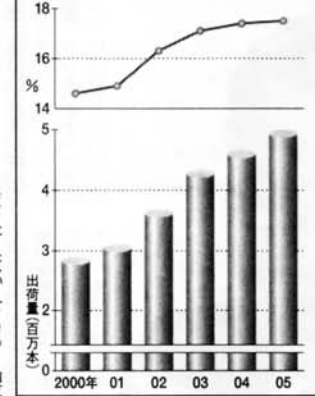


トナーカートリッジ・リサイクル

環境保全意識の浸透などで市場さらに広がる

再生トナーカートリッジシェアと出荷量の推移
(日本カートリッジリサイクル工業会)



ビジネスや生活に欠かせないプリントやコピーの需要増大を背景に、トナーカートリッジの再生品市場が拡大している。地球温暖化防止、資源循環型社会の構築など世界的な環境保全意識も追い風となり、リユース(再利用)・リサイクルの流れが一段と広がり、紙類やペットボトルなどに次ぐ、リサイクルの有力商品の一つとして、注目されている。カラープリンターの増加もあって、最近ではカラーカートリッジ再生品の伸びが著しく、再生カートリッジのシェアはこれからさらに高まりそうだ。

資源再利用機運強し

地球温暖化の影響とみられる、干ばつや洪水を天候異変による被害が世界各地で続出、日本や欧州で温暖化防止の取り組みに熱が入ってきた。昨年、CO₂(二酸化炭素)など温室効果ガス削減を柱とする京都議定書が発効したのも本格化の一因だ。日本は二〇一二年までの削減目標六割を達成するべく、産業界をはじめ多方面でCO₂発生の元凶といわれる石油・エネルギー関連製品の消費抑制、削減対策を進めている。

ここ数年、日本では持続可能な社会、資源循環型社会の構築に向け、廃棄物の削減・リサイクル、資源の有効活用の促進を目指し、さまざまな対策を進めてきた。「資源有効利用促進法(改正リサイクル法)」をはじめ、関連業界ごとに、「容器包装リサイクル法」「食品リサイクル法」や「産業廃棄物特別措置法」を制定した。〇五年には「自動車リサイクル法」が施行となり、一連の資源有効利用・廃棄物削減対策が本格的に動き出している。

〇一年にはグリーン購入法が施行され、国や地方自治体は率先して、環境に負荷を

まら与えないエコロジー製品やリサイクル品を調達、使用する方向を明確にした。企業もこれに沿って、積極的にグリーン製品を購入するところが増え、一般家庭にも浸透して、リサイクル製品の需要の

再生品のシェアは17.5%に カラーカートリッジにも対応

すそ野を広げている。

05年再生品は74%増

再生トナーカートリッジもこの流れに乗り、大きく成長している。〇五年の再生カートリッジの出荷量(日本カー

トリッジリサイクル工業会調べ)は、四百九十二万七千本と前年比七・四%増えた。〇三年までの毎年二ケタ成長からはやや伸びが鈍ったものの、純正品の増加率六・一%を上回り、トナーカートリッジ全体に占めるシェアは一七・五%と前年より〇・一ポイント上昇した。

企業や官公庁は純正品に比べ、半値かそれに近い値段で手に入り、環境負荷の少ない再生カートリッジの使用割合を高めている。技術レベルの向上で再生品の品質がよくなり、純正品とほぼ同じ水準のプリントやコピーができるようになったのも大きい。インターネットなど情報化の時代で、画像などをプリントする機会が増え、トナーカートリッジの取り替え頻度が高まっているのも、再生品需要を拡大している。

シェア30%が目標

最近ではモノクロよりカラーカートリッジ再生品の伸びが著しい。カラーのページプリンターの増加など併せて、ビジネスだけでなく家庭でも、プリントやコピーはカラー印刷が当たり前といった時代になってきた。このためリサイクル各社はカラーカートリッジ再生品の製造に乗り出している。ただモノクロ再生品に比べてカラーの再生は高い技術が必要で、開発に時間と手間がかかり、カラーの再生品の製造・販売はいまのところ、大手のリサイクル品メーカーにとどまっている。再生カートリッジは純正品に比べ、まだ品質面で劣っているというイメージが結構残っている。しかし近年、品質の改善は著しく、このイメージが一掃が当面の大きな課題だ。同時に再生品メーカー各社は、手作業が多く、人手のかかる検査、分解、組み立てなど再生作業工程の自動化にも取り組んでいる。

これらの工程合理化が進み、品質のはらつきがさらに少なくなれば、社会のリサイクル品重視の流れに沿って、再生トナーカートリッジの市場は一段と拡大が見込まれる。業界の目標としている欧米並みの再生品シェア三〇%の達成にはそう長い時間はかからないだろう。

